

# 熱田・宮宿

熱田・宮の周辺は湊町、宿場町、門前町として発展し、神宮を中心に、熱田百寺と称されるほど寺が多く、裁断橋跡などの史跡があり、いにしへの文化・歴史の香りが漂っています。

こんもりと茂る森の中で、玉砂利を踏み、しばし都会の騒々しさを忘れ、いにしへの人にかえった心地が味わえます。



**① 熱田神宮本宮**

「熱田さま」あるいは「宮」と呼ばれ親しまれてきた「熱田神宮」は、伊勢神宮に次ぐ由緒ある大宮です。三種の神器のひとつ「草薙神劍」をご神体とし、天照大神、素戔鳴尊、日本武尊、宮寶媛命、建甍命の五座の大神を祭っています。約20万の境内には、花が咲いても実のならない「ならずの梅」や弘法大師手植と伝えられる樹齢千年を超える巨大な「楠」など大樹が立ち並んでいます。



**② 信長堀**

「信長堀」は永禄3年(1560)織田信長が桶狭間の合戦の戦勝の報喜に奉納したもので、土と石灰を油で練り固め瓦を厚く積み重ねた築地塀です。



**③ 熱田神宮南門**

境内の熱田神宮宝物館には国宝、重要文化財などが収蔵されています。



**④ 白鳥庭園**

白鳥庭園は尾張徳川家の白鳥野木跡地に、敷地面積3.7haと名古屋市内最大級の規模を誇る日本庭園です。名古屋を中心とした中部地方の地形をモチーフに築山を「御嶽山」、そこからの水の流れを「木曾川」、その流れが注ぎ込む池を「伊勢湾」に見立て、源流から大海までの「水の物語」をテーマにした池泉回遊式日本庭園です。園内には、本格的な数寄屋建築の茶室「清羽亭」、汐の満ち干きを演出する「汐人の庭」、3つの音色を奏でる「水琴窟」などを配しています。一年をとおして多くの花が咲き、紅葉や雪吊りといった四季折々の風情を楽しんでいただけます。



**⑤ 裁断橋址・姥堂**

今は埋め立てられている精進川に架かっていた裁断橋は、小田原征伐に出陣し、陣中で病死した堀尾金助(松江城主堀尾吉晴の長男)の母が、なき子の供養のため、架け替えたものです。



**⑥ 誓願寺**

熱田神宮の西の地一帯は、平安時代末頃、熱田神宮大宮司家藤原氏の別邸(私邸)がありました。大宮司季範の娘、由良御前は源義朝の正妻で、この館で頼朝を生み、今も頼朝産場の井戸といわれるものが、この寺内にあります。



**⑦ 熱田魚市場跡**

寛永10年(1633)尾張藩主徳川光友の時代、海辺を埋立てて木之免と大瀬子に4戸づつ問屋を許可し朝夕の2回取引が行われていました。大正・昭和時代にはわが国有数の魚市場として栄えました。



**⑧ 東海道道標**

宝暦8年(1758)に建立された東海道と佐屋街道との分岐の道標です。



**⑨ 熱田荘(市指定文化財)**

この建物は、明治29年(1896)に建てられた「魚半」という料亭で、江戸時代の町屋の形式を残しています。



**⑩ 時の鐘やぐら**

蔵福寺に設置されていた「時の鐘」は、東海道を旅する人や熱田の住民に時刻を知らす役割を果たしていました。戦災で「鐘楼」は焼失しましたが、昭和58年に「宮の渡し公園」内に復元されました。右は常夜灯。



**⑪ 堀川**

都心を南北に貫通する人工河川。福島正則により開削されました。



**モデルコース**  
 名鉄神宮前駅——地下鉄伝馬町駅——裁断橋址——東海道道標——ほうろく地蔵——  
 名鉄神宮前駅——熱田神宮——熱田魚市場跡——熱田荘——宮の渡し公園

**交通ガイド**  
**地下鉄**  
 名古屋 地下鉄東山線 栄 地下鉄名城線 金山 地下鉄名城線 神宮西 地下鉄名城線 伝馬町  
**名鉄線**  
 名古屋 名鉄名古屋本線 金山 名鉄名古屋本線 神宮前  
**JR線**  
 名古屋 JR東海道本線 金山 JR東海道本線 熱田